

2021年度 木曾青峰高校 定時制 学校関係者評価報告書

評価 A:よい B:おおむねよい C:不十分

総合評価			学校評議員評価	
			評価	コメント
<p>生徒の安心・安全な学校づくりをはじめ、5つの重点目標の実現を意識しながら、臨機応変に取り組むことができた。様々な課題に対して、そのつど職員全体で情報を共有し、生徒一人ひとりに丁寧に向き合う体制がとられた。</p> <p>定時制全体をみると良くなっていると感じるが、生徒一人ひとりが学ぶ意義や、学ぶ喜びを感じられる学校生活を送れるよう、さらに力を尽くしていきたい。また、卒業後の社会生活を見据え、つけたい力を全職員で共有し、教科指導・生徒支援・生徒会活動といったすべての学校生活の中で、意識してより細かい指導をしていくことが求められる。今後も生徒の成長支援のために、職員間の連携方法等の改善をすすめ、各分掌の取り組みのさらなる充実をはかりたい。また特に今年度、コロナ禍での感染症対策の徹底や、ICT機器の導入に伴う種々の設定やトラブル解消にもきめ細かく対応することができたので、今後も継続していきたい。</p>			B	
成果と課題	評価	改善策・向上策	学校評議員評価	
			評価	コメント
<p>重点目標① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。</p> <p>【成果と課題】 多くの生徒は落ち着いた雰囲気の中で、特に問題なく学校生活を送っている。中には精神的に幼い生徒もおり、人間関係での苦手意識や、自分勝手な行動もあるが、トラブル等はみられなかった。</p> <p>精神的に不安定であるなど、必要と思われる生徒に対しては、専門家のカウンセリング等も利用しながら臨機応変に対応できているので、今後も継続的な対応、指導をしていきたい。</p> <p>また、スマートフォンの使用によるトラブル防止指導は、今後も継続的に取り組む必要がある。</p> <p>職員対象の非違行為防止研修会により、体罰防止の意識も定着している。また生徒が安全に下校できるため、気象や交通の情報を把握し対応できた。</p>	A	<p>落ち着いた学校生活環境が醸成されてきたが、一人でも雰囲気を乱す生徒がいると、トラブルに発展してしまうため、該当の生徒への根気強い指導と、周囲の生徒への手厚いフォローが不可欠である。生徒同士が互いを尊重する雰囲気を継続できるよう、研修会や学習会などにより、コミュニケーション能力の向上や社会性の定着を目指すとともに、生徒のささいな変化にも気づけるよう、全職員が常に意識し、どんな小さな事に対しても情報共有を徹底したい。</p> <p>ネットいじめ等の防止のため、SNS、スマートフォンの講習を継続的に企画する。</p>	A	<p>○ネットいじめ等の防止について改善策が見られ、期待したい。</p> <p>○ご苦勞されている様子が伝わります。生徒おひとりおひとりを大切にされていると思いました。</p>
<p>重点目標② 学習・生徒指導の両面から生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、社会に出てからも通用するような生きる力と豊かな感性をはぐくむ。</p> <p>【成果と課題】 面接等を通じて、生活面や学習面に対し、丁寧に生徒の相談に乗ることができた。</p> <p>学校での学習や経験が、アルバイト等で得た社会での生きる力を補完するものとなると良い。</p> <p>定期テストの重要性の認識が不足している生徒がいるため、進路に関わる試験等と、同様の位置づけであることも意識させたい。</p>	B	<p>基本的に毎日登校し、机に向かうという習慣形成を重視し、学習面、生活面ともに、生徒一人ひとりに対し、生徒の潜在能力を引き出すため、さらに根気強く指導を続けたい。</p> <p>社会的ルール、マナーについて粘り強く伝えるとともに、生きる力につながる、生徒につけさせたい力を、全職員で共有し指導していく。</p>	B	

<p>重点目標③ 生徒が希望する進路を実現するための基礎的な学力及びコミュニケーション能力を育み、社会的適応力を高める。</p> <p>【成果と課題】 様々な外部講師による講習会を実施したことにより、生徒自身普段と異なる刺激を受けることができ、生活態度の向上、社会への意識向上がみられた。</p> <p>コミュニケーション能力やマナー等については、家庭環境に影響される部分もあり、生徒ごとに差が大きいため、適応力が身につきにくい生徒の能力向上のための指導は難しい現状もある。</p>	A	<p>4年間で進路学習を系統的に複数回位置付けていく。アルバイトを通して学んでいることも大きいので、それを生徒と職員で共有し、指導に活かしたい。</p> <p>社会で生きる力を受け入れる準備ができていない生徒に対し、キャリア教育の拡充や就業支援と連携した指導をしていく。また、社会から期待されていることを把握するため、ハローワークと連携して企業訪問、事業所視察の場を設ける。</p> <p>少人数の良さを生かし、面接、作文等の進路指導に全職員であたる。</p>	A	<p>○卒業後の進路実現には、生活リズムの安定も必要となってくる為、家族にも早くから卒業を見据えたサポートをしてもらえると思う。</p>
<p>重点目標④ さまざまな活動を通し、地域との連携と開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【成果と課題】 定時制説明会等において、同時に授業公開を実施した。また、地域の保健師や支援員などとの支援会議や、意見交換の場を頻繁に持てた。</p> <p>コロナ禍による制約もあり、校内生活体験発表会は生徒、職員のみで実施した。次年度以降は外部からの参加も可能になることに期待したい。</p>	B	<p>地域の保健師や支援員などとの交流により、生徒へ多面的な指導ができるようになっていたので今後も継続したい。</p> <p>コロナ禍により、外部との連携が難しい状況が多かったが、外部講師によるSSTやSDGsに関連する講習や授業をリモート等も利用して実施できたので、今後も臨機応変に対応したい。</p>	B	<p>○コロナ禍においてリモート授業は多くなりますが、職員間で授業の内容を工夫していただくことをお願いしたい。</p>
<p>重点目標⑤ 「夢に挑戦する学び」への対応を進める。</p> <p>【成果と課題】 卒業後の進路や、自分に対しての自信につながるような、資格取得や、また自分の趣味や好きなことを、進路に活かせる可能性も考え、積極的に挑戦できる機会があれば良いと感じる。</p>	B	<p>生徒自身が自己の良さを認め、スモールステップの目標を持てるように支援する。さらに小さな達成感を積み重ねることでチャレンジする意欲を高めていくために、生徒、教員間で情報を共有したい。</p>	B	

評価項目		評価	改善策・向上策	学校評議員評価	
				評価	コメント
学習指導	授業内容（補充授業を含む）の充実と出席率の向上	B	各教科の教育目標を明確にし、生徒と共有するとともに、生徒の実態に応じた課題や教材の選定により、生徒の興味関心を引き、基礎学力の定着や出席率の向上をはかる。	B	
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	A	1、2年次から進路への意識付けをし、進路学習の機会を設定できると良い。2、3年次には、就労支援やハローワーク等によるガイダンス、説明会、企業見学等を実施し、遅くとも3年の冬までには進路の方向を見据えられるように、就職等の概要の把握と、具体的な進路指導を開始できるような支援が必要と思われる。また4年次の面接等の指導には、今後も担任だけでなく全職員で指導にあたる。	A	○アルバイト経験がなく働くことをイメージすることが難しい生徒には企業見学や体験等が実施できると進路選択に役立つと思います。
	キャリア教育の推進	B	生徒が長期的展望で自分らしく生きていくことができるよう、自己有用感を育む学びを意識する。また今年度のように授業、行事にキャリア教育の要素を盛り込んでいきたい。	B	
自主活動	クラブ・生徒会活動等自主活動の活性化	B	クラブ、生徒会における運営の意図や役員としての果たす役割、活動の意味を自覚させ、より活性化につなげていきたい。係を中心に職員全員でサポートすることができたので、今後も生徒が企画運営できるよう全員で支援する。	B	
生活指導	基本的社会性を持った人間の育成	B	時間を守ること、必ず連絡、報告をすること、清掃などにしっかりと取り組むことなどを生徒・職員共に意識する。また日々の声掛けを意識し、職員が模範となるよう、挨拶や社会的マナーを職員側から実践していく。さらにSSTなどを有効に活用し、生徒の社会性や人権感覚を磨いていきたい。	B	
	全職員による生徒の状況把握（情報の共有）	A	一つの職員室で、日頃から綿密にコミュニケーションをとることができる環境であるため、今後も常に生徒情報を共有できる状態を継続したい。	A	
	相談体制の充実発展	A	SCの有効活用や保健師との連携など、よくできているので今後も継続する。また誰にでも相談できる雰囲気やアセス後の全員面談も継続したい。	A	
	家庭・地域社会との連携	A	家庭内の異変を早期に感じ取り、今後とも自治体や行政・福祉等、関係機関と情報共有していく必要がある。また生徒の卒業後も見据え、地域と連携を続ける。	A	
学校運営	緊急時保護者への連絡体制の完備	A	体制は確立しているので、不測の事態に備えて、普段からシミュレーションをしておく必要がある。また日頃より保護者と連絡を密にとる。	A	
	学校ホームページ・パンフレットの充実	B	時宜を捉えて、適切に公開・更新することができたが、行事ごとのホームページの更新のさらなる充実を目指したい。	B	
	授業等の公開	A	感染症対策を行いながら、年間行事計画に沿って2回の公開授業に加え、希望する中学生にも授業を公開できた。	A	